

平成30年度 埼玉県英語教育強化推進事業
文部科学省委託「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」

研究紀要

研究テーマ

「伝え合いを重視したコミュニケーション能力の育成」



平成31年2月15日

皆野町立皆野中学校

1 文部科学省委託「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」

(1) 本校の英語科の授業改善のテーマ

「伝え合いを重視したコミュニケーション能力の育成」

(2) 連携する外部専門機関 指導者：東京学芸大学名誉教授 金谷 憲 先生

2 学校研究テーマとのかかわり

(1) 学校研究テーマ

「系統的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成」

－社会的に自立し、グローバル化に対応できる資質・能力の育成－

【委嘱研究】「キャリア教育とグローバル人材育成の研究」（皆野町教育委員会）

(2) 研究の意義

科学技術の進展、通信技術の発達などにより、人・物・情報が瞬時に世界を駆け巡るグローバル社会が訪れている。また人工知能の発達により、将来の職業にも変化が起こり、産業構造が変化することが予想される。

このような変化に対応するためには、中学校段階におけるキャリア発達を踏まえたグローバル人材を育成することが急務である。これからの不確実な時代にあっても、地域を愛し、夢と志をもって、未来をたくましく生きる生徒を育成したい。

平成28年度より本校では「キャリア教育」をすべての教育活動の中心に据え、学校教育目標「学ぶ意欲をもち、心豊かに、未来をたくましく生きる生徒の育成」の実現に向けて研究に取り組んできた。また、「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」の県教育委員会の委嘱研究を推進しつつ、学力向上をキャリア教育の視点で捉え直す研究も同時に進め、一定の成果を得た。

本年度はその成果を踏まえ、さらなる課題を明らかにして、全教育活動を通じた系統的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成に取り組み、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいきたい。

(3) 本校におけるグローバル人材育成の取組

我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられている。（グローバル人材育成推進会議によるグローバル人材育成戦略、平成24年6月より）

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

このことを踏まえ、社会のグローバル化に対応できる人材を育てるために、広い視点での見方や考え方を身に付け、郷土・皆野町を大切にしながら社会で活躍できる生徒の育成に学校全体で取り組んでいる。

(4) 英語教育の充実

グローバル人材の要素Ⅰの資質・能力を向上させるために、英語教育は重要な役割を担っている。

本校では、「伝え合いを重視したコミュニケーション能力の向上」をテーマに、文部科学省委託「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」研修協力校として、東京学芸大学の金谷名誉教授の指導のもとに、英語科の授業改善に取り組んでいる。

また英語検定は、町の補助事業を活用し、3級以上の取得者の育成を目指している。「英検受かろう会」と称して、皆野町教育長をはじめ皆野高校英語科教員との連携のもとに、受検対策の勉強会を開催している。

(5) 外国人留学生との交流体験

3年生の修学旅行において外国人留学生との交流をとおして、英語によるコミュニケーション能力を育成する試みを行っている。生徒のグループに外国人留学生が同行（約4時間）し、京都の町を散策しながら、生徒全員と英語でコミュニケーションする体験活動を創出した。

このことにより生徒たちは必然的に英語を使ったり、日本の歴史や文化について改めて考えたりする機会を持つことができる。生徒アンケート結果でも80%以上の生徒がこの体験活動に肯定的な回答を寄せている。

なおこの取組に係る費用は、皆野町教育委員会との連携により、グローバル人材の育成に係る「修学旅行補助金」を活用している。

(6) 秩父音頭をとおして育む郷土愛

毎年8月には、皆野中学校から部活動単位でチームを編成し、秩父音頭まつりに参加している。今年は女子ソフトテニス部が参加73チームの中から見事に県知事賞を受賞することができた。

さらに、本校の3年生代表生徒によるチームを編成し、皆野町と交流している浅草における「雷門盆踊り大会」に出場させていただき、秩父音頭を世界に発信することができた。

参加した生徒から「浅草で秩父音頭を踊って、改めて秩父音頭のよさがわかりました。」という感想があった。ふるさと皆野町への深き愛情を育む活動となった。

さらに、体育祭の秩父音頭の披露に向けて、特別支援学級において外部から指導者を招いて郷土芸能学習に取り組み、体育祭当日は秩父音頭のお囃子を見事に発表することができた。

また秩父音頭のオリジナル歌詞と囃し言葉を3年生から募集し、その歌詞に乗せて全校で踊ることができた。生徒作品例「チーム皆中本気を出して 皆野背負って力だす」



(7) 俳句の創作活動

皆野町出身の故金子兜太先生は、日本を代表する俳人であり、本校の校歌を作詞したことで有名である。本校では一昨年度から、国語学習の一環として俳句の創作活動に取り組んでいる。

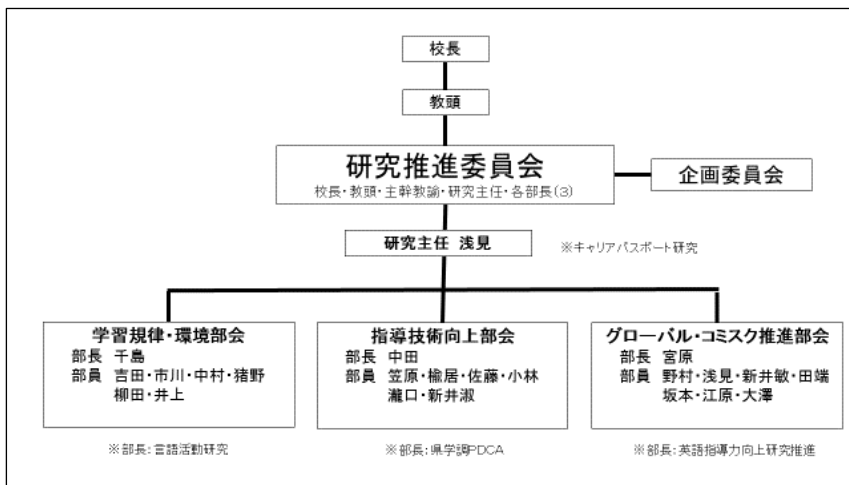
平成28年度は金子兜太先生を招き、生徒のつくった俳句を直接指導していただいた。平成29年度は皆野町ふるさと句会において生徒の優秀作品を表彰していただいた。そして本年度は、TVでもお馴染みの夏井いつき先生をお招きして、「句会ライブ」を12月15日に開催し、一流講師による俳句教室を実施した。このように俳句に親しむこと

をとおして日本の伝統文化を尊重する態度を育成する取組を行っている。

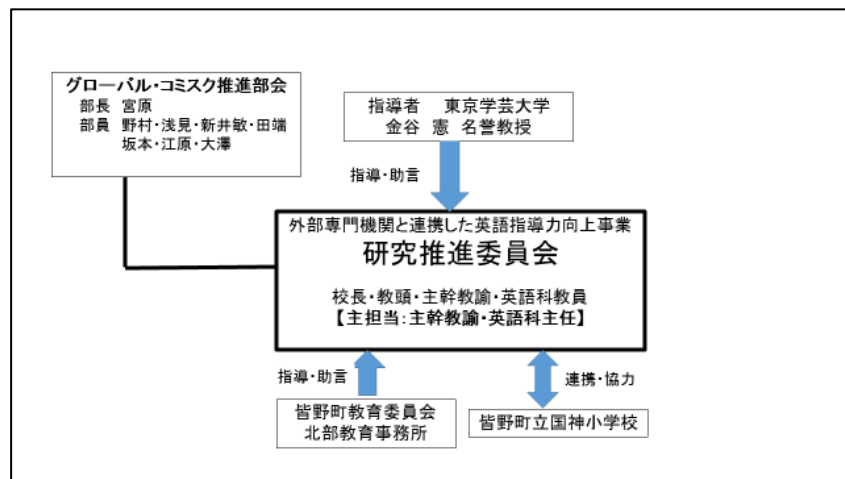
(8) 浅草校外学習

第1学年で平成31年2月7日に実施する。浅草での集団行動や体験学習をとおして、社会を支える「まち」や技能や伝統を守っていく「人」の姿を学ぶとともに、自らの生き方に生かそうとする態度とコミュニケーション能力を育成する。これは浅草と交流のある皆野町からの支援をいただいて実施する新たな試みである。浅草校外学習の学びから、皆野町のよさに改めて気づき、郷土を愛する心を育成していきたい。まさにグローバル人材に求められる資質の一つである日本人としてのアイデンティティを育成する上で有意義な学校行事としてとらえている。

3 研究組織



※本校研究組織における「グローバルコミスク推進部会」に本研究推進委員会を位置づける。



4 本年度の英語科の研究のあゆみ

【1】 英語科校内研修 6月28日(木)

- (1) 内 容 授業公開・皆中の英語教育の方向性等について
(2) 日 程 13:40~14:30 公開授業(3年) 3階多目的教室
授業者: 教諭
14:40~16:40 研究協議(校長室)
(3) 参加者 皆野中学校(校長・英語科教員)
(4) 指導者 東京学芸大学 金谷名誉教授
皆野町教育委員会 新井指導主事
(5) 指導助言(金谷名誉教授)

◇授業について

- ・英語を定着させるためには、音が入っている英文に「意味」を入れていく。意味のある繰り返しをしていくように。
- ・インプットを確認するためのアウトプットだけでなく、インプットのためのアウトプットもある。
- ・教師の仕事は生徒に仕事をさせること。

◇研究について

- ・他校で行っていることを何でもやってみる。理屈では解決できないことがある。やってみないとわからないことがある。

【2】 英語科校内研修 8月17日(金)

- (1) 場 所 皆野中学校
(2) 内 容 2学期からの研究授業に向けて、指導案についての指導助言等
(3) 日 程 13:30~16:30
(4) 参加者 金谷名誉教授、皆野中学校(英語科教員3名)、新井指導主事
(5) 指導助言(金谷名誉教授)

◇本校の授業映像について

- ・生徒を飽きさせないインプット。
- ・インタラクションでは話題を広げるのではなく、ひとつの話題で掘りさげていくイメージ。

◇先進校の授業映像について

【3】 研究授業 10月15日(月) 職員校内全体研修・皆野町教育委員会要請訪問

- (1) 内 容 研究授業・研究協議
(2) 日 程 13:40~14:30 研究授業(2年)
授業者 教諭
15:00~16:30 研究協議(多目的室3)
(3) 参加者 本校全職員

(4) 指導者 東京学芸大学 金谷名誉教授
皆野町教育委員会 豊田教育長 新井指導主事

(5) 研究協議の概要 司会 (加藤教頭)

<次第>

①あいさつ

校長・豊田教育長・金谷名誉教授

②授業者反省

③研究の進捗状況

「英語科の課題と授業改善のポイント」

(英語科主任)

④協議 司会

⑤指導助言

⑥謝辞



(6) 指導助言 (金谷名誉教授)

◇授業について

- ・スモールトークでは生徒からの発言を引用して話題を広げ、生徒にたくさん話させることが大事。
- ・列ごとに次々にペアを変えて対話させ、その中に教師やALT も入り、生徒の様子を観察できるようにするとよい。
- ・ひとつの活動にかかる時間を長くしない。生徒が集中できる時間は教員が思っているよりかなり短い。

◇研究について

- ・グローバル人材 (主体性・積極性・チャレンジ精神・協調性・柔軟性) の育成とは、普通のことが出来る人材を育成すること。それにプラスして語学力があること。

【4】 研究授業 11月8日(木) 英語科校内研修

(1) 内容 研究授業・研究協議

※秩父地区英語教育研究会の授業研究会を兼ねる。

(2) 日程 13:40~14:30 研究授業 (1年)

授業者: 教諭

14:50~16:30 研究協議 (多目的室3)

(3) 参加者 皆野中学校 (校長・教頭・主幹教諭・英語科教員)
秩父地区小・中学校及び高等学校英語担当教員

(4) 指導者 東京学芸大学 金谷名誉教授
北部教育事務所 大澤指導主事
皆野町教育委員会 豊田教育長 新井指導主事

(5) 研究協議の概要 司会 (加藤教頭)

<次第>

- ① あいさつ
校長・豊田教育長・金谷名誉教授
吉岡会長
- ② 授業者反省
- ③ 研究概要の発表 (英語科主任)
- ④ 協議 司会 (新井指導主事)
- ⑤ 指導助言
- ⑥ 謝辞



(6) 指導助言 (金谷名誉教授)

◇授業について

- ・先生が行うデモンストレーションの内容次第で生徒が失敗することを恐れずに発言することができる。
(先生の答えが生徒の虚を突くような発言だと、生徒の発想力が広がる)
- ・生徒が自分の持っている英語のスキルで返答できそうなテーマを用意するとよい。



【5】 1月17日 (木) 英語科校内研修

- (1) 内容 研究発表会に向けての協議・打合せ
- (2) 日程 13:30~16:30
- (3) 参加者 皆野中学校 (教頭・主幹教諭・英語科教員)
- (4) 指導者 東京学芸大学 金谷名誉教授
皆野町教育委員会 新井指導主事

(5) 指導助言 (金谷名誉教授)

◇本校の授業映像について

- ・トピックに具体性がなさすぎると話題が盛り上がらない。
- ・トピックは架空のものや自分と関係ないものの方が気楽に発言できることが多い。
- ・生徒が日本語で返答するのはOK。
- ・ペア練習の後に数人の生徒に先生から英語で質問をする時は間髪入れず質問するとよい。

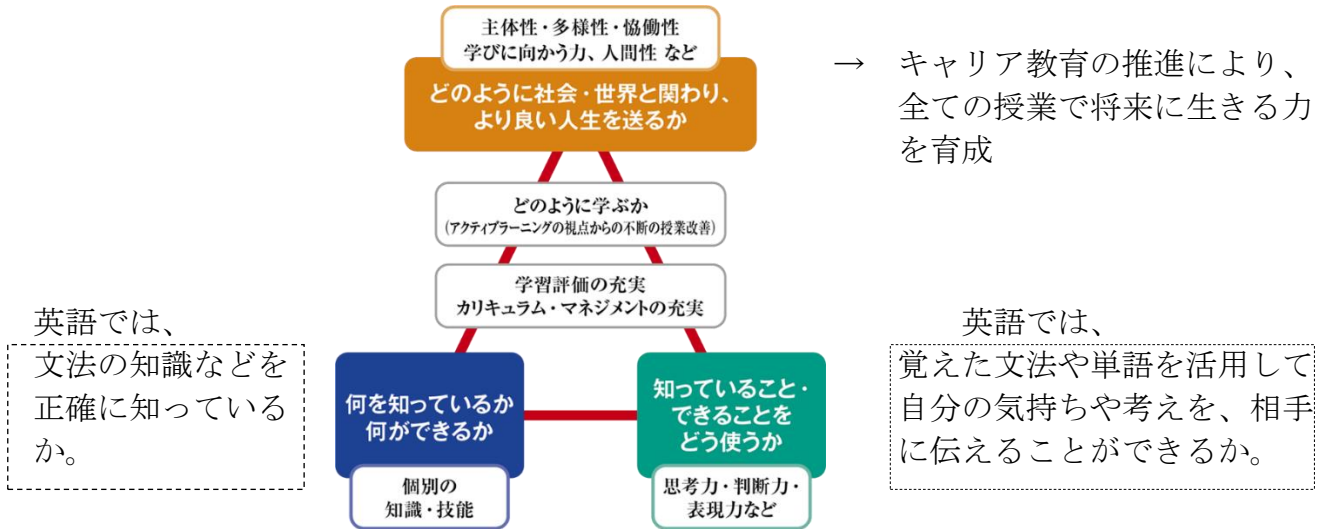
◇研究について

- ・とりきめは1つだけにした方が各担当の特色が出せるのでやりやすい。
- ・研究協議のトピックも1つに絞った方が、協議が盛り上がりやすい。

5 本校の英語教育～未来をたくましく生きる力を育成するために～

(1) 英語教育の指針

ア これから求められる資質・能力（新学習指導要領より）



イ 英検 3 級以上取得率 60%以上を目指して

中学校 3 年生が英語検定を学校で受検する際の受検料を、町から全額補助していただいている。（年間 1 回に限る）

ウ キャリア教育の推進 — 6 スキルズ

本校では、平成 27 年度からキャリア教育における基礎的・汎用的能力を育成する取組を行っている。生徒に身につけさせたい資質・能力を、以下のように 6 つのキャリアスキル（通称：6 スキルズ）として示し、全教育活動を通じてその育成を図っている。

キャリア教育	求められる力	英語科での目標
人間関係形成能力	思いやりのある集団をつくる力	○自分の役割を大切にしよう ○ペア、グループ活動で友だちの良さを引き出そう
社会形成能力	お互いが高め合える集団をつくる力	
自己理解能力	自分を見直し、理解する力	○自分の単語数、文法力に合わせた表現をしよう
自己管理能力	自分で自分を律する力	
課題解決能力	課題を見つけ、その解決方法を考え、実行する力	○英文の概要をつかもう ○与えられたテーマについて自分の考えを伝えよう
キャリアプランニング能力	自分の将来を切り開いていく能力	○感想や賛否をその理由をつけて伝えよう

- (2) 本校の英語教育の方針 —音声中心の繰り返し学習を通して—
皆野中学校では、「中学校英語としての完成」と「長期的英語学習の視点に立った土台作り」～完成と育成のバランスのとれた指導～を目指している。

<音声中心の繰り返し学習>

私たちが日本語を自然に身につけたように、英語も無理なく習得させたいと考え、言語習得の自然な流れに合わせて「聞く」「話す」「読む」「書く」の順番で指導していく。

1歳前後の赤ちゃんが、親の言葉を聞いて真似をして話すように、まずは音声を繰り返し聞かせる。

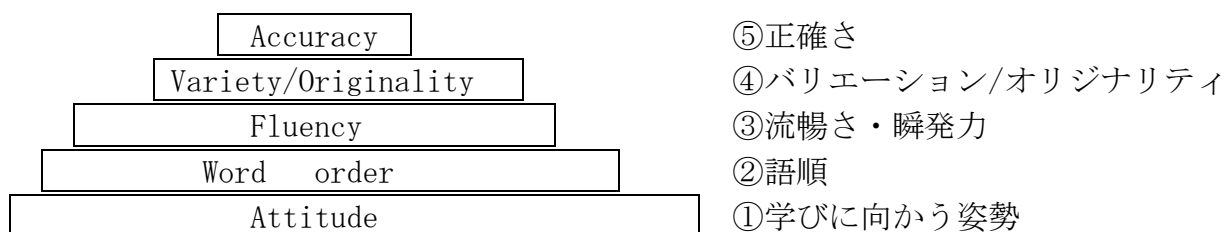
その後、幼稚園児が平仮名の練習をして、身の回りの看板などを読み始めるように、教科書をひたすら読ませ、最後に小学校入学で名前を書いたり、簡単な文章を書いたりするように、ライティングに取り組んでいく。

(3) 課題

知識を身につけているのに実際の場面ではその知識を十分に活用できない、自分の思いを上手く表現できないという生徒の実態がある。そのため、完璧な英文での返答を求めるのではなく、まずは話したい、伝えたいという主体性や意欲を引き出すことや失敗を恐れずに話してみようという情意面の成長を促す指導を大切にしていける。発話の機会を多く設け、生徒が英語で自分の思いを伝えることができた実感できるような成功体験を蓄積させていく。

(4) 皆野中学校での英語授業のスタンダード

☆学習者・指導者の心得



☆授業中、英語で質問されたことに自信をもって返答できない生徒への対応☆

上記学習者・指導者の心得の①～⑤の優先順位で対応を考える。

本当に困っていれば、正確でなくても、オリジナリティがなくても、構わない。

まずは学びに向かう姿勢が大切である。英語の質問に日本語が混ざっていても、ジェスチャー中心のコミュニケーションでも構わない。

補足：②語順に関しては、学習者が身につけるまでに時間がかかるものである。

語順を気にしすぎて流暢さがなくならないように留意する。

[③流暢さ < ⑤正確さ]にならないように。

間違えた語順でも、そのまま放っておかず、指導者が正しい語順で言い換えることによって、生徒が正しい語順に気づいたり、頭に残ったりするようにする。

6 学習指導案

第2学年 英語科学習指導案

日時 平成30年10月15日(月)

場所 教室

指導者 ALT

1 単元名 PROGRAM 5 Gulliver's Travels

2 単元について

(1) 題材観

マイクが学校で風刺作家ジョナサン・スウィフトによって書かれた小説「ガリバー旅行記」を読んでいる。そこに由紀がやってきて、本の中の場面について話し合う。本文ではガリバーが日本を訪れていたというエピソードや、その訪問先の1つである観音崎で行われているガリバー祭りについても紹介している。

また町の紹介をしているセクションを参考にし、自分の住む町を見つめ紹介したいことを伝える場面を設定していきたい。

新出文法事項としては、存在文(There is (are)~)や接続詞(when, if)などの表現を学ぶ。文構造を理解し、状況や場面に応じた運用ができるようにしていきたい。

(2) 生徒観

<省略>

(3) 指導観

今年度英語科ではコミュニケーション能力の育成を目指し、音声中心の繰り返し学習による基礎学力の定着を目標として授業改善に取り組んでいる。本単元では本文を聞き内容についての質問に答えながら概要を把握した後、個人やペアでの音読練習に繰り返し取り組ませたい。また既習の英文を使い、自分の町を紹介する英文を考えALTに紹介することを通して、英語で自分の思いを伝えることへの興味・関心を高めていきたい。

3 単元の目標

- There is (are)~.の文、接続詞 when や if を用いた文について理解し、運用できるようにする。
- ALT に自分の町の紹介を考え伝える。

4 指導計画と評価の計画

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (ア)	外国語表現の能力 (イ)	外国語理解の能力 (ウ)	言語や文化のについての 知識・理解 (エ)
<ul style="list-style-type: none"> •間違いを恐れず文を書こうとしている。 •積極的に音読しようとしている。 •間違いを恐れず、自分の考えを積極的に伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> •自分の考えが伝わるようにまとまった文を書くことができる。 •自分の考えが伝わるように話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •話の要点や概要を聞き取ることができる。 •本文の概要を読み取ることができる。 	There is (are)~.の文、接続詞 when や if を用いた文について理解している。

時間	ねらい・学習活動	評価規準	評価方法
1	There is (are)~. の文を聞いて意味を理解し、絵を完成させる。 身近にある物を There is (are)~. の文を用いて書く。	(ア) (エ)	活動の観察 ワークシート
2	接続詞 when を用いた文を聞いて意味を理解する。 接続詞 when を用いた文を用いた英文を書く。	(ア) (エ)	活動の観察 ワークシート
3	接続詞 if を用いた文を聞いて意味を理解する。 接続詞 if を用いた文を用いた英文を書く。	(ア) (エ)	活動の観察 ワークシート
4	「ガリバー旅行記」についての対話文や観音崎の紹介文を聞き 概要を理解する。	(ウ)	活動の観察 ワークシート
5	「ガリバー旅行記」についての対話文や観音崎の紹介文の内容を 読み理解し、音読する。	(ア) (ウ)	活動の観察 ワークシート
6	自分の町の観光名所や、お祭り、名物などを ALT に紹介するた めの英文を書く。	(ア) (イ)	活動の観察 ワークシート
⑦	自分の町の観光名所や、お祭り、名物などを書いた英文をペア やグループで練習し ALT に紹介する。	(ア) (イ)	活動の観察 ワークシート

5 研究テーマ

本校の研修テーマ「系統的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成—社会的に自立しグローバル化に対応できる資質・能力の育成—」と関連し、英語科では授業改善の視点として「伝え合いを重視したコミュニケーション能力の育成」を研究テーマとし、音声を中心とした繰り返し学習や英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力の育成を目指している。そのために身近な場面や状況を設定した会話活動の工夫に取り組んでいる。

新学習指導要領では、領域として「話すこと」が〔話すこと（やりとり）〕と〔話すこと（発表）〕に分かれ設定された。既習の表現を繰り返し練習し定着を図る活動や覚えた表現を使い自分の考えや思いを即興で伝え合う活動を充実させ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養ってきたい。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・間違いを恐れず自分の考えを伝えようとしている。
- ・自分の町の観光名所、お祭り、名物などについて ALT に伝えることができる。

(2) 本日の 6skills ・ ・ ・ 人間関係形成能力、社会形成能力

ペアやグループ活動をとおして、相手の話をよく聞いたり自分の考えを相手に伝えたりする力やお互いの気持ちを尊重し、協力して活動に取り組む力を身に付けさせたい。

(3) 展開

過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○) 評価 (◆) 6skills (☆)
導入	1 あいさつ	・ あいさつをする How's the weather now? What day is it today? What's the date today?	○英語学習の雰囲気をつくる。
	2 Program 5 の単語練習	・ ペアで新出単語の練習をする。	○協力し大きな声で練習させることで次の活動が活発にできるようにする。
	3 トピックトーキング	・ ペアで役割を交代しながら与えられたトピックについて話す。	○間違いを恐れず、お互いに笑顔で話すことができるような雰囲気をつくる。 ○支援が必要な生徒にはヒントを与える。 ◆間違いを恐れず自分の考えを伝えようとしている。

	(本時の目標)		
	自分の町の観光名所、お祭り、名物などについて ALT に伝えることができる。		
展 開	<p>4 自分の町の紹介文の練習</p> <p>5 ALT に自分の町を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人、ペアで伝えたい町の観光名所、お祭り、名物、などの紹介文を練習する。 ペアで練習した後、先生方に紹介文を伝える。 ペア、グループが発表する。 ALT の質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○声の大きさや、相手に伝わる表現の仕方を工夫させる。 ○繰り返し紹介文を練習させ、自信をもたせる。 ◆自分の町の観光名所、お祭り、名物などについて ALT に伝えることができる。 ☆ペアやグループで協力しながら、活動に取り組んでいる。 ○ALT が発表を聞いた感想を話す。
ま と め	<p>7 まとめ</p> <p>あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 自分の町を紹介する文を言うことができたか振り返る。 <p>Good bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに感想を記入させる。

7 板書計画

本時の目標 自分の町の観光名所、お祭り、名物などについて ALT に伝えることができる。

6skills 人間関係形成能力、社会形成能力

第1学年 英語科学習指導案

日 時 平成30年11月8日(木) 第5校時
場 所 多目的教室3
指導者 (T1) ・ (T2)

1 教材

教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 (開隆堂)

単元 Program 8 *Origami*

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、大介が得意な折り紙についてクラスでスピーチをしたり、マイクとウッド先生に折り紙について話したりする場面とウッド先生が折り紙をできるようになった理由について話す場面で構成されている。自分のできることを紹介する内容であり、日本の伝統文化である折り紙を使うなど身近な題材である。

本単元の主な言語材料は、能力を表す **can** と手段・方法をたずねる疑問詞 **how** である。単元を通して、できることを伝えたり、たずねたり答えたりする表現と、どのようにするのかたずねたり答えたりする表現を学習する。これらの表現を学習することにより、この後の「My project2」でのゴール活動の「他者を紹介する英文を作る」活動での表現の幅を広げることができる。ここでは、「皆野中学校の先生方を1人選び、その先生のできることを文にして人に伝える」を単元ゴールに設定し、**can** を活用して英文を作る活動を行う。そしてその作った文を人に伝える力を身につけさせたい。

(2) 生徒観

<省略>

(3) 指導観

今年度英語科ではコミュニケーション能力の育成を目指し、音声中心の繰り返し学習による基礎学力の定着を目標として授業改善に取り組んでいる。本単元では本文を聞き、内容についての質問に答えながら概要を把握しつつ、個人やペア、グループでの音読練習に繰り返し取り組ませたい。また言語活動の定着を図るため、ICT を用いて様々な場面での **can** の使い方をペアやグループで口頭練習し、その練習した文を書く活動へとつなげて書くことへの抵抗感を少なくしていきたい。そして作った文を繰り返し人に伝えることで、より深い定着を図る。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

- ① 助動詞 **can**、疑問詞 **how** の文構造を理解する。
- ② **can** を使って「皆野中学校の先生ができること」を文にして人に伝える。

(2) 本単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取り組み) ①積極的に音読しようとしている。(コミュニケーションの継続) ②スモールトークや本文の内容理解のインタラクションなどの活動で、知っている語句や表現をうまく利用して自分の意見を伝える。	(適切な筆記) ①can を使って皆野中学校の先生の紹介文を作ることができる。	(適切な聞き取り) ①話の要点や概要を聞き取ることができる。(適切な読み取り) ②本文の概要を読み取ることができる。	(言語についての知識) ①can を用いた文の構造を理解している。 ②how を用いた文の構造を理解している。

4 指導計画 (全6時間 本時1/6)

時数	ねらい・学習活動	単元の評価基準	評価方法
毎時	○英語学習に対する意識とクラス全体の雰囲気をも高める。 ・教師、生徒の間でスモールトークを行う。	アー②	活動の観察
① 本時	○Program8-1,2,3 本文の内容を理解する。 ・本文の内容を聞き取ったり、読み取ったりしてワークシートに記入する。 ・8-1,2 の新出単語の意味と読み方を学習する。	ウー①②	ワークシート 活動の観察
2	○助動詞 can の肯定文、疑問文の意味と使い方を学習する。① ○8-1,2 の新出単語の意味と読み方を学習する。 ・can~, Can you ~? を使って、自分や他の人ができることをペアで練習する。 ・8-1,2 の単語、本文の音読練習をする。	エー① アー①	後日ペーパーテスト 活動の観察
3	○助動詞 can の肯定文、疑問文の意味と使い方を学習する。② ○be good at ~の使い方を学習する。 ・can~, Can you ~? を使って、自分や他の人ができることをペアで練習する。その後ノートに練習した文を書く。 ・8-1,2 の新出単語と本文の音読練習をする。	エー① アー①	後日ペーパーテスト 活動の観察
4	○疑問詞 how を用いた文の意味と使い方を学習する。 ① ○8-3 の新出単語の意味と読み方を学習する。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・How ~?を使って、どのようにするのか「手段」のたずね方をペアで練習する。 ・8-3の本文の音読練習をする。 	エー② アー①	後日ペーパーテスト 活動の観察
5	<ul style="list-style-type: none"> ○疑問詞 how を用いた文の意味と使い方を学習する。 ② ○Progam8 全体の読み方を確認する。 ・How ~?を使って、どのようにするのか「手段」のたずね方をペアで練習する。その後ノートに練習した文を書く。 ・8-1,2,3 の新出単語と本文の音読練習をする。 	エー② アー①	後日ペーパーテスト 活動の観察
6	<ul style="list-style-type: none"> ○can を使って皆野中学校の先生の紹介文を作る。 ○Progam8 全体の読み方を確認する。 ・can を用いて作った文をワークシートに記入して、ペアで伝え合う。 ・8-1,2,3 の新出単語と本文の音読練習をする。できる範囲で顔を上げて音読させる。 	イー① アー①	ワークシート 後日ペーパーテスト 活動の観察 後日リーディングチェック

5 研究テーマ

本校の研修テーマ「系統的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成ー社会的に自立しグローバル化に対応できる資質・能力の育成ー」と関連し、英語科では授業改善の視点として「伝え合いを重視したコミュニケーション能力の育成」を研究テーマとしている。音声を中心とした繰り返し学習や英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成するために身近な場面や状況を設定した活動の工夫に取り組んでいる。

新学習指導要領では、領域として「話すこと」が「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」に分かれ設定された。授業で生徒が英語を話す機会を多く与え、自分の考えや思いを即興で伝え合うことができる力や自分の考えや気持ちを整理し簡単な文を用いて話すことができる力を育成し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていききたい。

6 本時の学習

(1)本時の目標

- ・本文の概要をつかむことができる。【外国語理解の能力】ウー①②

(2)本時の 6skills・・・人間関係形成能力（本校研究テーマ・キャリア教育の視点）

(3)展開

過程	学習活動	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ○評価 ☆6skills
	1 あいさつ (一斉)	(T1)Hello, everyone. How are you? How's the weather today? What day is it today? What is the date? How do you spell November?	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が元気に英語を発することで英語の授業の雰囲気をつくる。

導入 15分		<p>予想される生徒の反応 「I'm good / sleepy / tired.」 「It's sunny.」 「It's Thursday.」 「It's November 8th.」 「N-o-v-e-m-b-e-r」</p>	
	2 スモールトーク (一斉)	<p>(T1)Do you know about 3-1 students? They go to Chichibu today. Why? They have the chorus contest in Chichibu. Well, I think 1-2's chorus was very good. Do you like singing a song? Do you like music? What song do you like? Talk with your friends.</p>	<p>・生徒の反応によって、違う話題に変更することもある。</p>
	3 皆野中学校の先生の紹介文練習 (ペア)	<p>(T1)Open your file. Let's practice introducing your teachers. I'll give you 30 seconds. Stand up, please. Ready go! Now please move and start again.</p>	<p>・スネークフォーメーション方式でペアを変えて練習する。</p>
	4 本時の目標	<p>目標・ Program8 の内容をつかむ。～誰が何を作れるか、おさえよう～</p>	<p>・本時の 6 skills は人間関係形成能力をおさえる。 ・本時の目標を伝えることで、生徒全員がその後の活動への意識を高める。</p>
展開 30分	5 Program8 の内容理解 (1) 教師による Oral introduction	<p>(T2)Who is this boy? Who is this woman?</p> <p>予想される生徒の反応 「Mike」「Wood 先生」「分からない」 「おばさん」</p> <p>This is a new character. His name is Daisuke. He talks about <i>origami</i>. I like <i>origami</i>. Do you like <i>origami</i>? What's this?</p> <p>予想される生徒の反応 「Yes」「No」「鶴」</p>	<p>・リスニングの前にピクチャーカードを提示して教師が説明を加える。 ・「登場人物」のピクチャーカード ・「折り紙」のピクチャーカード</p>

	<p>(2) Listening 概要をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカード並べかえ ・ワークシート記入 <p>(3) 教科書確認</p>	<p>It's a crane. I can make it. Can you make it?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>予想される生徒の反応 「Yes」「No」</p> </div> <p>(T2) Listen to the story of Program 8. Now please rearrange these picture cards in a collect order.</p> <p>(T1) Now, I'll give you a worksheet. Please listen to it and write your answer on the sheet.</p> <p>Do you want to look at the textbook? You can open it and check the story.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況に応じて何回かくり返してCDを流す。 ・ワークシート配布 ・リスニングでの内容理解に行き詰まったら教科書を開かせて確認させる。 <p>【評価場面 1】</p> <p>○教師の発話やリスニングを聞いて、また、教科書を見てワークシートの設問に答えることができる。【ウー①②】(ワークシート)</p>
	<p>6 Program8-1,2 の新出単語練習</p> <p>(一斉) (個人) (ペア)</p>	<p>(T1) Let's check the new words. Repeat after me. I'll give you 1min. Please practice them by yourself. Let's make a pair and do <i>jan ken</i> with your partner. Winners practice them first. Losers check them on their sheet. Losers, please say them in Japanese. (1min) Ready go! Change your roles.</p>	<p>☆発音が分からない単語をペア同士で教え合う。 (人間関係形成能力)</p>
	<p>7 Program8 内容 再確認</p>	<p>(T1) Who likes <i>origami</i>? Who can make a NOAchan? Who can make a crane?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>予想される生徒の反応 「だいすけ」「Wood 先生」「Mike?」</p> </div>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>8 本時の全体評価 あいさつ(一斉)</p>	<p>(T1) リスニングは難しいか。内容は押さえることができたか。分かったことは何か。 Good bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの声を拾い、本時のまとめを行う。 ・次回への授業への意欲を高める。 ・大きな声であいさつする。

7 板書計画



8 備考 生徒数 男子17名 女子15名 計32名

7 研究の成果と課題

(1) 概要

- ・生徒が授業中に英語で活動する時間の増加
- ・英語による発問・指示、生徒の発言への切り返しの技能が向上したことにより、生徒の英語学習への抵抗感の減少、言語活動の活性化等、授業の流れがスムーズになった。
(スモールトーク・トピックトーク・クラスルームイングリッシュ技能の向上)
- ・3年の3級以上の英検取得者
今年度の CEFR A1 相当レベル以上の取得率 49%
- ・英語による教師と生徒とのやりとりの質を向上させ、言語活動を充実させて、生徒の英語力を育成していく。
- ・コミュニケーション能力の育成をとおして、基礎的・汎用的能力の育成を図り、キャリア教育を充実させる。
- ・地区の小・中・高等学校との連携をとおして、本校の研究成果を普及していく。

(2) 生徒からみた成果と課題（生徒アンケートから）

本校では音声中心の繰り返し学習を3年生が昨年度から、1・2年生が本年度から取り組み始めた。下記の生徒アンケート Q1・2 では3年生で最もよい結果が表れた。音声中心の学習形態に慣れてきているものと思われる。

また下記アンケート Q5 にあるように、本校の英語教育に対して前向きな回答が全校で93%だった。英語科ではアウトプットの機会をたくさん設定するように意識してきたが、アンケート Q4 の結果から、「話す力」「書く力」「聞く力」の優先順位で生徒が英語の能力を伸ばしていきたいと考えており、生徒のニーズと指導方針が合致している。

しかし、授業中に英語で話したり、書いたり、聞いたりする際、消極的な場面も見受けられる。生徒がより活発に活動できるような工夫をしていくことがこれからの課題である。

	1年	2年	3年	全体
Q1. 授業で友達と英語を使って活動することで新しい英語の表現を使えるようになりましたか。	80.9%	81.4%	86.6%	83.0%
Q2. 授業で自分や友達の考えや気持ちについて、英語で聞く、話す、読む、書くなどの活動を行っていましたか	87.3%	87.2%	90.3%	88.3%
Q3. 授業で英語を使って活動することで、自分も英語を使ってみたいと思うようになりましたか。	66.7%	75.7%	71.9%	71.4%

※当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した割合

H30年12月 実施

Q4 次の6分野の中で、自分の力を伸ばしたいと考えているのはどれですか。1つか2つ選んでください。	1年	2年	3年	全体
話す力	47.6% ①	50.0% ①	59.7% ①	52.4% ①
書く力	34.9% ②	28.6% ③	34.1% ②	32.5% ②
聞く力	31.7% ③	34.3% ②	29.3% ③	31.8% ③
文法知識	11.1% ⑤	25.7% ④	29.3% ③	22.0% ④
読む力	27.0% ④	17.1% ⑥	13.4% ⑥	19.2% ⑤
語彙力	11.1% ⑤	25.7% ④	15.9% ⑤	17.6% ⑥
Q5 皆野中学校の英語の授業を受けることで、より英語力が高まると思いますか。	98.5%	90.0%	90.3%	92.9%

※Q5は強くそう思う、そう思う、少しそう思うと回答した割合

H30年12月 実施

(3) 英語科の教員からみた成果と課題 — 生徒がいかに変容したか

【3学年担当教諭・英語科主任】

① 生徒の変容

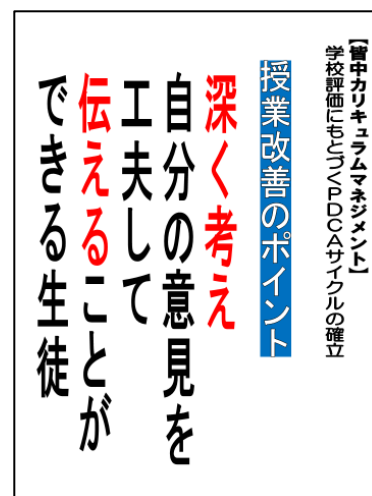
「授業で行ったことが直ぐに目に見えた結果になることもあるが、繰り返しているとじわじわ体に染み込んで気付いた時に口から自然と英語がでるようになっていくことが望ましい。」という金谷名誉教授からのご指導にあったように、昨年、今年と音声中心の繰り返し学習の成果が、3年生の冬を迎えた時期から大きく表れてきたと感じる。

- ・英語でのコミュニケーションに臆することなく、取り組めるようになった。
また、臨機応変にジェスチャーや日本語を織り交ぜながら、コミュニケーションを途切れさせない工夫が上手になった。
- ・All English 型の授業にも慣れ、教師からアドバイスする際に英語で伝えることも可能になった。

- ・アウトプットの機会を増やすことにより、正しい語順でのコミュニケーションが図れるようになった。

② 成果と課題

教員が英語で進める授業形態に慣れたことにより生徒の発話量が増えた。6月に金谷名誉教授からご指導いただいた「教師の仕事は生徒に仕事をさせること。」を実行し、教師が英語を使う環境を整えたことによって生徒が自然と英語を使っていた。また、学校全体で本校テーマの「伝え合い」を理解し、協力体制ができたことが大きな成果である。これからは、生徒の発話の質を向上させるために、スモールトークを行う際、生徒が英語でも表現できるテーマ、表現したくなるテーマの設定の工夫について研究を進めていく。また、いつまでに何を定着させるかを表す文法シラバスについても考えていきたい。



【2学年担当教諭】

① 生徒の変容

- ・毎時間、テーマにそって会話を続ける練習をペアで行うことにより、多くの生徒の中に間違いを恐れず話そうとする意欲が高まってきた。また話題に関する質問にも既習の英文を使い、答えようとする姿勢が身についてきた。

② 成果と課題

- ・ペアでの会話を繰り返し行うことで、簡単な英語を使ってお互いに自分の考えを英語で伝え合うことができるようになってきた。

- ・生徒が興味を持ち、進んで話したくなるようなテーマを工夫していくことが今後の課題である。

【1学年担当教諭】

① 生徒の変容

- ・1年生は、音声中心の意味のある繰り返し学習にシフトチェンジをしてから半年が過ぎようとしている。当初は、いきなり増えた英語の指示、インプット、アウトプットの場面で生徒たちは明らかにとまどいを見せた。しかし、徐々に教員による日本語の使用量を減らしていくにつれて、次第に生徒たちはその授業スタイルに慣れていった。
- ・教員の英語の指示をよく聞くようになった。
- ・授業中、生徒たちが英語を使う頻度が増えた。簡単な英文や単語、日本語が混ざった会話であるが、よく伝え合いをするようになった。
- ・ペアワーク、グループワークが活発になり、生徒同士の教え合いが生まれている。

② 成果と課題

- ・普段の生活で簡単な英語を使う生徒が出てきた。

- ・スモールトークの話題によっては日本語が先行してしまい、英語を話す機会が失われることがある。そういう場合には、生徒の日本語を教員が英語に直して発信している。
- ・音声中心の取組をしてきたため、まだ文字を書く力はあまりついていない。文字と音の一致が出来るようになってきたので今後は書く力を伸ばす指導も工夫していきたい。

(4) 管理職からみた成果と課題

- ・教師が英語で生徒に話しかけたり、生徒自身が英語を話したりする場面が増え、英語科の授業が劇的に変わってきた。
 - ・英語科部会が活性化し、日常的に英語科教員のコミュニケーションが図れている。授業改善のための学校文化が醸成されつつある。
 - ・英語科の教員が公開授業に率先して取り組み、相互に授業を参観し合い、指導方法の試行錯誤を繰り返している。
 - ・英語科の取組が他教科へ波及し、教員相互の授業公開が積極的に行われるようになり、学校全体の授業力向上につながっている。
 - ・本校の取組を他の学校に発信しようとする英語科教員の意識が高まっている。
 - ・金谷名誉教授から、研究協議の進め方についての示唆をいただいた。今後の校内研究の参考としたい。
-
- ・研究テーマである「伝え合う」ことのあるべき姿を教員が共通理解を図り、生徒にもその姿を伝えることが必要である。
 - ・今後もコミュニケーションする意欲を学校全体で高めていく取組が重要である。
 - ・ビデオ映像による研究発表のスタイルは画期的であるが、教員の負担が大きい。

(5) 本校の職員からみた成果と課題（他教科の教員による英語の授業参観から）

- ・挙手や発言に積極的な姿勢が見られるようになった。
 - ・小グループ等での話し合いも、雰囲気よく取り組む姿勢が見られる。
 - ・正答ではない発言があった時に、その生徒に対して「ナイス・チャレンジ!」といった肯定的な声かけが見られた。
 - ・スモールトークを参観して、繰り返すことの大切さがわかった。
-
- ・「伝え合う」内容について、その内容を正確にとらえさせ、正対させるため、発問に工夫・改善すべき点がある。
 - ・生徒自身が「伝えたい!」と感じるような、興味関心を高める工夫や、自分や地域社会に密接に関係した課題設定など、授業展開や教材提示を工夫することが必要である。
 - ・日頃からの学級経営や、生徒間・生徒－教師間の信頼関係の醸成が必要である。
(居場所がある集団づくり、相手の発言を認め合う集団づくり)
 - ・すべての生徒をスモールトークに参加させることが求められると思うが、生徒の能力差があって難しい生徒もいる。

(6) 他校の英語科教員からみた成果と課題 (11/8 授業研究会アンケート結果から)

- ・ほぼ All English で授業を行っていましたが、一人としてやる気のない素振りの生徒が見つからなかった。4月からの先生方の指導の素晴らしさだと感じました。低学力の子の理解を考えると、つい日本語で説明をする部分も増えてきてしまいますが、これからの英語教育では、まさに本日の授業のようなものが求められているのだと思います。(中学校)
- ・生徒がとても落ち着きがあり、失敗を恐れず英語を意欲的に使い、先生方との信頼関係が築けていました。(中学校)
- ・中学校の最近の英語の授業が見られて、小学校の英語との連携の仕方の参考になりました。(小学校)
- ・小学校からの積み重ねは大切だと感じた。(小学校)
- ・小中高の交流がより多くなることを期待しています。(高校)